

花を求めて

林 幸子

わたし達植物好きのグループは 同じ職場で働く松島清子さんと藤田寿々子さん、それに浅野哲子さんの4人です。去年は勤務校がばらばらになってしまいましたが、休みを待って山へ出かけるのが楽しみでしかたがない仲間です。

去年は、4月に波松ヘイソスミレを見に、5月には部子山と富士写ケ岳へ、6月には上打波の嵐ヘエイザンスミレをさがしに行き、夏休みには尾瀬へ2泊3日の山の花旅に、そして青葉山へオオキンレイカを見に汗を流して登りました。どの歩きも実に楽しく、数年来続けている花を求めての山行きです。

6月10日には敦賀の奥の三国山へ、サラサドウダンとベニドウダンの花を見に行く計画ができました。

7時に福井を車で出発しました。敦賀の町をぬけて車は黒河川にそって国有林の中の道を奥へ奥へと入って行くと、アカガシ、アラカシ、ラウジロガシ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモなどの常緑広葉樹にまじって、コナラ、アカンデ、ハゼノキ、ケンボナシ、シラキ等が見られます。谷は深く奥へ入っていくにつれて、車はヘアピンカーブの連続するあぶない道をひやひやしなながら登って行きます。

その頃雑木に交って、スギが点々と見られ、これが日本海側の多雪地帯に自生するスギの一変種であるアッシュスギの自生であることを同行してくださった渡辺先生に教えられました。うっかり見おとしてしまいそうになる所でしたが、よく見ると樹型が植林のものとは違うことに気づきました。雑木の中にばらばらと立っているさまは今まで見たことのない光景でした。この貴重な杉も次々と切られていくようすが見られ、このまゝ残しておいてほしいねと話合っただけでした。

その頃になると黒河川の水音もはるかの下になり、まもなく峠の切通しの行きどまりの所につきましました。福井を出てから2時間かかっていました。ここから歩きはじまるのです。どんよりくもったはっきりしない天気ですがみんなは胸をはずませて歩き出しました。車を下りた所に、もうベニドウダンの赤い花が見事に咲いており、花ざかりにみんなは、すっかり喜んでしまいました。鬼ヶ岳で見てから2度目の自生地での花です。しばらく登りが続いたあと滋賀県側に出て視界が広がり、天気の良い日にはびわ湖が見えるはずなのに、あいにくの天気で、かすんで見えないのが残念でした。

このあたりからいよいよ待望のサラサドウダンが出てきました。ピンクの花弁に赤いすじのこまかく入った花は、以前に一枝もらって標本に作ったことはありましたが自生地で見るとははじめてです。夏山に登っても、実の頃に花は見れませんでした。ベニドウダンの整った樹形に対して、

サラサドウダンの樹形は野生的な大らかな感じですが、さっそく写真に写し、みんなもサラサドウダンの前で写真におさまりました。このサラサドウダンは株によって色の濃いもの、淡いもの白花に近いものなどがあり、変化に富んでいることがわかりました。

この山には、コックバネウツギも花をつけており、オオバキスミレも多く、これも花をつけていました。そのうちにツルタチツボスミレがあることに気づきました。花はすんでしまっていたのですが、予期しなかった逸品で、ここにもあったかとうれしく、丁寧に採集しました。カマツカの白い花、ウスギヨウラクの花、アズキナン、タニウツギなど、みんな花をつけていました。しめっぽい所で、ヒメシヤガも花期は過ぎていましたが見つかり、これも気をつけて歩くと随分あちこちで見かけられます。

三国山への道は、ベニドウダンとサラサドウダンの赤とピンクの花が見事で、しかも少しもあらわれている様子が見えないのがうれしく、すっかりいい気分になって歩きました。ベニドウダンは割合小さくても花をつけていますが、サラサドウダンは大きい木にしか花をつけていません。花をつけていないサラサドウダンは、なかなか見わけがつかえません。

みんな花のついている両方の小枝をとってくらべて見ると、サラサドウダンの葉の裏はベニドウダンより艶があることや、葉脈上の毛が茶褐色であること、葉の形が丸みをおびていることなどループでのぞいたり、すかしてみたりしているうちにだんだんわかってきて、それからはサラサドウダンさがしに興じながら歩くのも楽しいものでした。

そのうちに湿地に出ました。ぬかるのでどろだらけになりながら湿地をのぞくと、この中にはキンコウカが優生で、エゾリンドウ、ハイイヌツゲ、ゴソソ、モウセンゴケ、ヒメシダ、コシロネなどがありました。明王の禿、三国山はまだ遠いが昼になったので昼食をとり、採集品の整理をしました。昼食後は三国山の方へ登ってみることにしましたが、途中から道は荒れ歩きづらく、植物もあまりかわらないのでひきかえし、明王の禿の方へいくことはあきらめて帰路につきました。

このサラサドウダンの花ざかりの山には、人かげも少なく、わずかに数名のハイカーにあったばかりでした。あまり人がはいらぬから、このように自然が荒らされないでいるのでしょう。

あちこちに林道が作られ、山の自然が荒されていく姿をあちこちでみているので、この三国山への道だけは何とかこのまま守れるといいなあと思ったのでした。この日はメンバーの藤田さんが都合で不参加でしたが、みんなのみやげ話を聞いて残念がったこと。……………

私達のグループは、むずかしい植物の勉強をするというわけではありませんが、だれも身のまわりの植物についてよく観察し、ひとりで出かけた時など、「ヒメシヤオンにしてはおかしいね」とハルシヤオンを袋に入れてもってきて見せ合ったり、田のふちにミズアオイがあったことを話したり、顔をあわせると花の話に花を咲かせる楽しいグループです。

(福井市足羽小学校)